

次期瀬戸市将来計画 基本構想

2040年。

瀬戸はどんな景色になっているでしょう。

私たちは今、大きな転換点に立っています。

人口減少や価値観の多様化、デジタル技術の進展など、

これからの社会は大きく変わっていきます。

だからこそ、目の前の課題だけを見るのではなく、

「2040年に実現したい瀬戸のまちの姿」

から、今を考えることが大切です。

その未来は、誰かがつくるものではありません。

瀬戸に関わる一人ひとりの想いと行動が、

その未来をつくっていきます。

イラスト
(2040年の瀬戸を表すもの)

あなたは、

2040年の瀬戸に

どんな景色を思い描きますか。

混ざって生まれる。 化学変化が〇〇なまち

瀬戸の人はたのしむ。まだ見たことのない景色を。

瀬戸の人はおもしろがる。それぞれの思いや違いを。

挑戦する気質、変化を楽しむ心。

新しい技術や仕組み、異なるものを受け入れ、

時代に合わせた価値や可能性を生み出してきた人たち。

そんな歩みを受け継ぎ、わたしたちは次の時代へと挑んでいく。

伝統とテクノロジー、日常とアート、技術と感性、地域と世界、暮らす人とかかわる人、

そして、せとものを生み出した土壌とそこに芽吹く新しいクリエイティブやアイデアの種。

さまざまな違いが出会い、混ざり合い、新たな価値を生み出し、

その価値が次の出会いにつながり、このまちは化学変化し続けていく。

思い切った挑戦でもいい、小さなきっかけでもいい。

声をかける、まちを気にかける、混ざり合う。

わたしたち一人ひとりの変化が、瀬戸を動かす力に変わる。

土と火、釉薬や技術が出会い、思いがけない景色を生むやきもののよう。

化学変化を力に、まだ見ぬ景色を描き続けていこう。

瀬戸の未来は、想像を超えてくる。

瀬戸市は、1000年以上にわたり、やきものづくりを通して、異なる素材や技術を融合させながら新しい価値を生み出してきました。

その挑戦の積み重ねこそが、瀬戸らしさであり、未来へ受け継ぎたいまちの財産です。

私たちが2040年に目指すのは、多様な人や地域、文化、産業、技術が自然に混ざり合い、互いに影響し合いながら、新しい価値を生み出す「化学変化」が当たり前になっている状態です。

違いを受け入れ、出会いを楽しみ、新しい可能性を生み出していく。そこから生まれた新たな価値が次の出会いや挑戦を呼び、さらに新しい価値へとつながっていく。

その積み重ねが、瀬戸市の未来をつくっていきます。

イラスト
（「化学変化」を表すもの）

「人」が主役。
建物は背景（やきものも背景）。

違う人、違う世代、違う文化、
違う仕事、違う価値観、

混ざり合うことで新たな価値を生み出す様子を表現。

2040年に向けたまちづくりの考え方

人口減少や価値観の多様化などが進む中、2040年は、社会構造や生活様式の変化が日々の暮らしに大きく表れ、これまでの「当たり前」が大きく変わる節目になると予測されています。

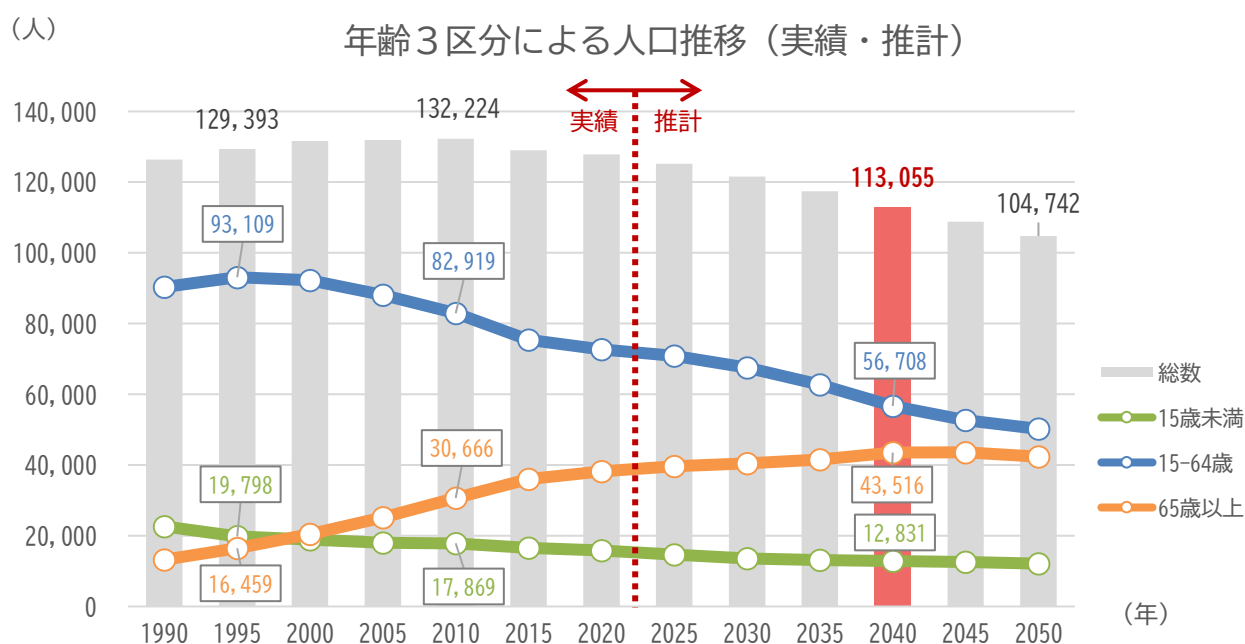
2040年に向かう今は、その変化を見据え、これまでの考え方や仕組みを新たな時代に合わせて変えていく転換期にあります。

大きな変化を迎える中、目の前の課題だけにとらわれることなく、「2040年にありたい瀬戸の姿」を描き、その未来の姿から今を見つめ直していきます。

●2040年、人口が減る。暮らしの前提が変わる。

瀬戸市の人口は、2010年をピークに減少が続いています。

2040年には、生産年齢人口（15～64歳）が総人口のおよそ半数となり、働く人、地域を支える人、行政サービスを担う人が今より少なくなることが見込まれ、まちを支える世代が減少し、一人ひとりの役割がより重要になっていきます。



出所：国勢調査／瀬戸市推計

また、現在の人口減少の主な要因は、転出超過よりも、出生数が死亡数を下回る「自然減」の影響が大きくなっています。

全国的に人口減少が進む中、人口を再び大幅に増加することを目標とするのではなく、人口減少を前提として、暮らしの質や地域の力を高め、持続可能なまちづくりへと転換していく必要があります。

●変化を力にしてきた、１０００年。

瀬戸市は、１０００年以上にわたり、やきもののまちとして発展してきました。

やきもの産業から派生したものづくりの気風は、幅広い製造業へと受け継がれ、現在の瀬戸市の産業基盤を支えています。

また、その気風が、ツクリテが身近にいる暮らしや、やきものが日常に溶け込む文化を育み、市民の暮らしや瀬戸らしさの礎となっています。

時代が変わるたびに、新しい技術を取り入れ、新しい価値を生み出してきた歩みは、瀬戸市のアイデンティティそのものです。

イラスト

（陶器から磁器、ノベルティ、ファインセラミックス等、
先人たちの挑戦と改革によりやきもの産業を発展させてきた流れを表す）

●変化を、未来につなげていく。

人口減少が進む中、社会はこれから大きく変化していきます。

その変化を前向きに受け止め、瀬戸らしい強みを活かしながら、新しい価値を生み出していくことが求められます。

2040年の社会は…	瀬戸市が目指す方向
人口減少・少子高齢化が進む	誰もが役割と居場所を持てるまちへ
地域を支える担い手が不足する	多様な主体が地域で支え合うまちへ
価値観や暮らし方がさらに多様になる	違いを認め合い、新しい価値を生み出すまちへ
AI・デジタル技術が暮らしや仕事に浸透する	技術を暮らし・産業・行政に活かすまちへ
世界とのつながりがより身近になる	世界とつながり、多様な人が集うまちへ
「量」より「質」が選ばれる時代になる	「瀬戸らしい」価値で選ばれるまちへ
働き方や学び方が大きく変わる	誰もが学び、挑戦し続けられるまちへ
環境への配慮が暮らしや産業の前提となる	自然と共生する持続可能なまちへ
健康寿命が延び、人生100年時代が進む	生涯にわたり活躍し続けられるまちへ
「住む人」だけでなく「関わる人」も地域を支える時代になる	多様な人がつながり、新しい価値を育むまちへ

2040年の社会は、これまでの「当たり前」が大きく変わる時代です。その変化を受け身で受け止めるのではなく、新しい価値を生み出す力へと変えていくことが求められます。

瀬戸市は1000年以上にわたり、時代の変化を受け入れ、挑戦を重ねながら、新しい価値を生み出してきました。

その歩みこそが、これからの瀬戸市を支える強みになります。

イラスト
(左側中央の表の10項目を補完するもの)

これからのまちづくりで大切にしたいこと（施策の大綱）

将来像を実現するためには、瀬戸らしい強みを活かしながら、多様な主体が互いに影響し合い、新たな価値を生み出し続ける土台を築いていくことが重要です。

瀬戸市のアイデンティティであるやきものづくりになぞらえ、将来像の実現に必要な4つの要素を定めました。それぞれの要素がつながり合い、高め合うことで化学変化を起こし続け、不確実な社会に対応できる持続可能なまちづくりを目指します。

【釉薬】瀬戸らしいダイバーシティを実現する

昔から高齢者や外国人、障害のある人はもちろん、ツクリテややきもの作家、アーティスト、起業家など、多様な人たちが集い、それぞれの個性や価値観を活かしながら、まちの魅力を育んできました。

年齢や国籍、働き方、暮らし方や住む場所などの違いを超え、多様な人や価値観が自然に共存し、互いを認め合いながら活躍できる「瀬戸らしいダイバーシティ」の実現を目指します。

釉薬が土や火との出会いにより新たな色彩や表情が生まれるように、多様な人や価値観が出会い、結びつくことで、新たな発想や価値が生まれ、化学変化をもに起こす仲間を増やしていきます。

イラスト

【火】挑戦が育つ学びをつくる

イラスト

やきもの文化とともに培われたものづくりの精神を通じて、挑戦する気風や、自ら考え行動する力を育んできました。

多様な学びや学び直しの機会を充実させるとともに、ものづくりや地域との関わりを通じた探究を深め、地域資源を価値化し、まちへ循環させる視点や思考を育むことを目指します。

焼き上げる火が器に新たな価値を与えるように、一人ひとりの挑戦への想いに火を灯し、失敗を許容しながら挑戦を後押しする文化を育むことで、挑戦することが「瀬戸の当たり前」となり、まちに新たな活力と好循環を生み出します。

【土】行動を生み出す環境をつなぐ

瀬戸市は、1000年続くやきもの文化や豊かな自然、暮らしやすさと利便性、多彩な地域資源に恵まれたまちです。こうした「瀬戸ならではの」魅力が、人を惹きつけ、新たな行動を生み出す土壌となっています。

それぞれの地域資源やまちの魅力をつなぎ、磨き上げるだけでなく、課題に伴う新たな行動や価値を生み出す可能性を見出すことで、誰もが自然と行動を起こしたくなる環境を育むことを目指します。

土が器を育むように、人や地域、活動をつなぐ環境を築くことで、多様な行動が自然と芽吹き、新たな価値を生み出す瀬戸らしい土壌を未来へつないでいきます。

イラスト

【技術】変化を促すテクノロジーと融合する

イラスト

やきもの文化の中で培われた技術を時代に合わせ進化させながら、新たな価値を生み出し、まちの発展を支えてきました。

デジタル技術やデータを徹底的に活用し、データに基づくまちづくりを進めるとともに、民間企業や大学などとの連携を深め、人や地域、産業との融合を図ることで、変化を力に変えるまちを目指します。

技術が土・釉薬・火、それぞれの力を引き出し、一つの器として完成させるように、テクノロジーと瀬戸市の強みを融合することで、新たな価値の創出へとつなげていきます。

計画の基本的な考え方

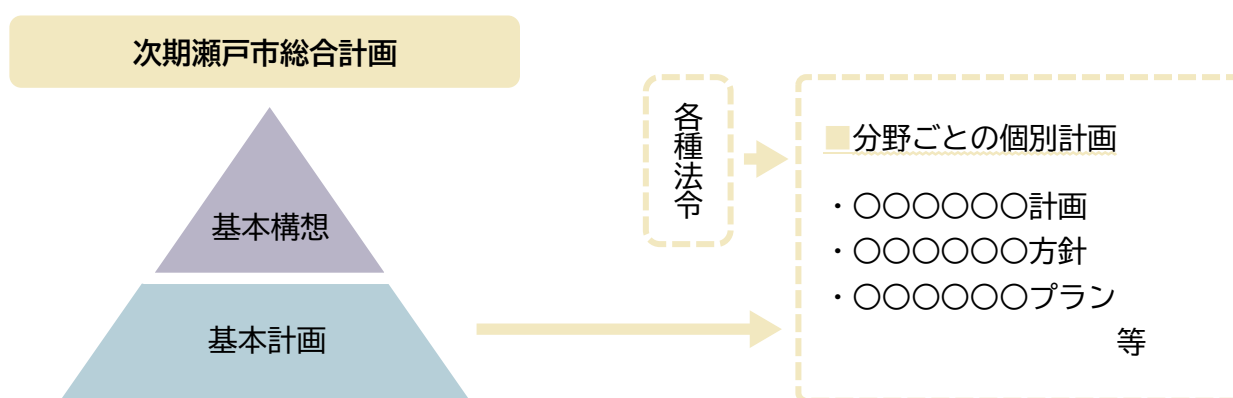
●計画の位置づけ

次期瀬戸市将来計画（第7次瀬戸市総合計画）は、2040年を見据えた瀬戸市の将来像と、その実現に向けたまちづくりの方向性を示す、市政運営の最上位計画です。

平成26年（2014年）に制定した瀬戸市基本構想条例に基づき、市の長期的な方針となる基本的な構想（基本構想）を策定するものです。

●計画の構成・期間

- ・基本構想：将来像及びこれからのまちづくりの方向性を示す市政運営の最上位方針
- ・基本計画：基本構想の実現に向けて概ね4年間に取り組む施策の方向性を示す総合的な計画
- ・基本構想や基本計画の実現に向けた具体的な事業は、分野ごとの個別計画において管理



	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040
基本構想	2040年まで													
基本計画	4年													
					4年									
									4年					
													4年	